

算命学中庸

【初年】 4 4 回目

4 4 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【十二大従星力学】 ④

【初年】 4 4 回目 【十二大従星力学④】 01

□ 十二大従星力学（じゅうにだいじゅうせいりきがく） ④ 回目

⇒ 天禄星（てんろくせい）

天禄星 — 壮年

天禄星は壮年の時代の星です。

目安としては〔30代～40代〕と考えてください。

〔30代～40代〕の年代を想像してください。

『天禄星』は40代位を想像していただくと、わかりやすいと思うのです。

普通、この年代は働き盛りの年代です。

もう若くはないけれども、まだまだ世の中で活躍できるし、仕事もバリバリやれる年代です。

その意味で、頼^{たの}もしい性格といえるわけです。

天禄星 — 壮年 ⇒ 頼もしい

もう親を頼みにする歳^{とし}ではありません。

〔30代～40代〕になれば、一般的には結婚して、家庭^{きず}を築いて、子供も生まれて、会社のなかでも新入社員ではなくて、中堅社員として働いている時代です。

自分の人生は、自分のチカラでやって行かなくてはいけないという時代になります。

普通はそれができるはずの年代ですから、その意味で勢いが盛んで困難に立ち向かえる質を有します。

それゆえに、思慮、分別^{ぶんべつ}ある行動の手段もわきまえているといえます。

大人ですので、常識ある判断力を備えています。

大人として頼もしい
常識をそなえている

一生のなかでも、特に働き盛りといえる年代ですから、たくましく、バリバリ仕事をこなしていく、そういう生き方が出来る年代なので、エネルギー（精力的）な生き方ができます。

参考・頼もしい [まかせておいて安心なさま。心強さを与えるさま]

参考・大人 [自分の置かれている立場の自覚。分別のあるさま]

参考・分別 [経験・見識・知恵などによる善悪・損得の考え]

参考・常識 [健全な社会人ならもっているはずの知識・判断力]

〔たとえば〕女性であれば……。

この年代で仕事をしていなくても、結婚して子供を産めば、子育てに追われて、日々の生活も忙しくて大変です。

仕事をしていれば、お休みの日でも、安穩と休んでは

いられず、どんどん活動して過ごしていかないと乗り切れない年代です。

その意味では、勢いが盛んでエネルギッシュな星ですが、もう立派な大人なので、若い頃の無鉄砲さのようなものは無くなってきます。

会社のなかでも、だんだんと責任ある地位に就いて、
じゅうせき
重責ある仕事を与えられるようになってきます。

私生活においても、家庭を築いて子供が生まれれば、向こう見ずなことはできなくなってきます。

堅実で常識に即した人生を渡って行かなくてと、いう時代になるわけです。

そういう意味では、チカラ強くてエネルギッシュではあるのですが、慎重さを身につけます。

慎重で用心深い

慎重で用心深い性格を備えている星です。

参考・無鉄砲 [前後のことを考えない、むちゃをすること]

参考・堅実 [手堅くしっかりしてあぶなげのないさま]

参考・性格 [固有の性質、感じ方、考え方の特質をいう]

前回の『天南星』は若者の星ですから、若者の無鉄砲さ、恐いもの知らずのところもあって、思い切った事が出来たわけですが、もう立派な大人になりましたから、(立派な大人になっていない人も世間にはいますけど、それは別にして) この歳になると、人生のさまざまなことを経験して、世の中でも責任のある立場に立つようになって来ましたから、無鉄砲な事は出来なくなるわけです。

もう親を頼って生きて行く年代ではなく、自分の人生は自分の足で歩いて行かなければならない。

そういう時代ですから、どうしても用心深く、常識的に過ごして行かなければならないわけです。

〔たとえば〕女性でOL時代には、ボーナスが出たら全部それをブランド品の購入に使ってしまったとか、有休がとれたということで、さっと海外旅行に出かけました。というような生活をしていた人でも、結婚して家庭をもった年代になると、すごく堅実になってきます。もう自分勝手なことはできなくなります。良識ある生活に切り替えなくてははいけないわけです。

それゆえに、エネルギーッシュではありますけど、用心深いです。

『天禄星』はそういう特徴を備えています。

☞ そこで考えて頂きたいのですが——、
一般に会社のなかで考えれば、20代の新入社員・若手の社員のほうが体力はあります。

30歳を過ぎると、体力は少しずつ衰えてきます。

40代になると、若い頃のような無理は利かなくなってくる。

そうしますと、天禄星の時代は、確かに体力は衰えているわけですが、一般的には、この年代の人のほうが経験は豊富ですから、若手を指導していくとか、仕事はできます。〔ただ漫然と仕事をして来たような人は別ですよ〕
若い人のほうが体力はありますけど、体力が衰え始めてきたこの年代のほうが仕事はできるはず。

参考・漫然^{まんぜん}〔心にとめて深く考えず、はっきりとして目的や意識をもたないさま。ぼんやりして心にとめないさま〕

☞ これは主婦の仕事にたとえても……、
20代の結婚仕立ての主婦よりも、30代40代の主婦の
ほうが家事は上手でしょうね。

手際よく、効率よくこなせるはずです。

さて——20代のほうが体力はあるのに、なぜ天禄星の
時代のほうが仕事はできるのでしょうか？

そうです。経験ですよね。

会社に入って10年、20年と仕事をしてきたなかで、
さまざまな経験を通して、それらの体験が自分の自信
にも繋がって、技術としても身について、そこが若者
と違うところです。

この時代の人頼もしく、力強く、常識に即して人生
を渡れるのは、すべて経験が土台となる時代ゆえです。

天禄星は経験が土台になる星です。

経験が土台となる星

おなじ仕事をやらせたときに、若くて体力があっても、
経験がなければ、うまく仕事をこなせないはずです。

少々、体力は落ちていますが、この年代が働き盛りというのは、いままで培ってきた経験・体験が土台となる星なので、実力が身につけているはずですよ。それゆえに、若い人よりも仕事ができるはずの年代になるわけです。

“経験が土台”といっても、ダメな 30 代、40 代の人もいます。若い頃から苦労しないで、経験も積んで来ないで、親のスネかじりで過ごして来たら、この年代になっても、頼り甲斐たよがいのある生き方はできません。そうすると、立派な 40 代とはいえないわけです。

きちんとした経験を積んで、仕事も精力的にこなして、家庭を一生懸命まもに護って、それで 40 代を迎えたのであれば、その人は逞たくましくて、常識を備えた人物になっているはずですよ。

そうしますと、天禄星をもっている人は、実際に経験をしっかりと積み重ねてきたのか、来なかったのか……どうかによって、人生は大きく二つに分かれます。

成功の道へ入ってゆくのか、ダメなほうの人生になるか、大きく分かれてしまうわけです。

きちんと経験を積んできた人は伸びる

経験が乏しい人は伸びない

ここが天禄星をもつ人の、最大の焦点になります。

⇒ 天禄星の子供が生まれたら、育てる過程でなるべくいろいろな経験を積ませてあげるとよいのです。

子供なりの苦労や辛い^{つら}ことも含めてです。

なるべく小さい頃から、実際に自分が身をもって経験を積んだほうが、人生を渡るうえで有利になります。

箱入り娘のようにして育ててしまうとダメなほうへ行きますよ。

親が何事につけて、その子を守ってあげて、過保護な育て方をしてしまうと、その子供は育つ過程で経験を積まないまま大人になってしまうわけです。

もしそうだとすれば、その子の将来は、ダメなほうの天禄星になってゆきます。

意欲があって、働き盛りの年代の星ですから、少々の

苦勞をしたほうが星は輝くのです。

さまざまな体験のなかで、失敗しても構いません。

その失敗が糧になります。成功のもとになります。

特に天禄星にいえることなのです。

小さい頃、こういう事をやらせたら、うまくいかなくて失敗しちゃった。その失敗が経験になるわけです。

天禄星の子供は、うまく成功させるのが目的ではないのです。経験・体験をすることが目的なのです。

失敗は何度もあってもかまいません。

失敗するという^{つら}辛さは苦勞でもあるのです。

天禄星の人は、そのような体験を繰り返して、伸びていくようになります。

そういう経験が多いほうがよいのです。

“経験が土台となる”ということは、言い換えれば、おなじ失敗を、繰り返さないことにつながります。

それゆえに、子供の頃、若い頃は、失敗を恐れてはいけません。

さまざまなことを進める過程で、物事が順調にゆかなかったり、失敗したりすれば、何でこのような結果に

なってしまったのかと……自分なりに悩んだり、苦しんだりしながら、立派な人になっていく星なのです。成長の過程における貴重な経験を土台にして、おなじ失敗を繰り返さない星です。

⇒ “おなじ失敗をくり返さない” といえは、聞こえはよいのですが……未経験の事柄は得意ではありません。

未経験の事柄は苦手

この未経験という事象を、社会、組織におけるトップの立場として考えます。

〔たとえば〕会社の社長であれば、常に自分が先頭にたって組織を引っ張って行きますから、経営案件においても未経験の事柄に当然ぶつかります。

そのときに、組織のトップとしては、いちいち失敗していたのでは、組織が機能しなくなるとか、崩壊してしまうという恐れもでてきます。

経営トップの立場の人は、未経験の事柄にも対処しなければいけない見解事案は多くでてくるはずで

そのような事態に対して、毅然と処理しなければいけない立場には、あまり向かない星なのです。

トップの立場にはあまり向かない

天禄星は、意欲的で心身ともに成熟して盛んな年代なのですが、トップの立場には向かないのです。

トップを補佐するような立場には大変向いています。ゆえに、この星は、補佐役の星といわれています。

補佐役の星

世の中には、つぎのような事はよくあると思います。

〔たとえば〕会社内で天禄星の人が専務の立場にいるときは、とても有能な専務です。

社長を補佐して、社長の足りない部分を助け、埋め合わせるような役割をなせば、有能な専務と評価されて、時期社長といわれるようになることもあります。

ところが……実際に社長になると、大した社長になれなかったり、社長になった途端に失敗をしてしまったりとか、このような状況になりやすいのです。

つまり、専務とか副社長のよう、補佐する役目に向いている宿命の人も組織には必要です。

もし天禄星の人が社長なり、トップの立場に就かなければならない状況になったとすれば——心構えとして、あくまで「自分はこの組織を補佐するのが役目」そういう心づもりで、その地位に就くことです。

そうすればうまくいきます。

つまり、自分がトップの立場になったから、みんなを引っ張って行こうと思わないで、むしろ「自分は組織の足りないところを補佐する」そういう心境で職務をこなしていくことが肝要です。

参考・毅然 [意思が強く、物事に動ぜずしっかりしたさま]

参考・意欲 [そうしたいと思う心。積極的にしようとする気持]

☞ そうしますと、家庭のなかで補佐役の立場の人というのは、通常は誰でしょう？

そう。奥さんですよ。

夫が一家の大黒柱で、妻はそれを補佐する役目です。

あるいは、妻は子供たちの補佐もします。

天禄星の女性は、妻の役目をじょうずに熟こします。

言葉を換えれば、主婦に向いています。

女性ならば主婦に向く

そのため、良妻賢母の星といわれる

天禄星は「良妻賢母りょうさいけんぼの星」といわれます。

いい奥さんになれます。

ただし、この星の良さを活かしていればですよ。

どの星もそうですけど、その星の良さを生かしていないとダメです。

天禄星をもっているだけで、良妻賢母になれるわけではありません。

天禄星の妻はあくまでも「夫や子供の補佐を自分がするのだ」と、いう心境（心の状態）で努力すると、その妻がいることによって、夫や子供の運勢が伸びていくようになります。それゆえに、世俗的な“カカア殿下”になってはいけないわけです。

夫を^た立てて、ときには子供を立てて、というふうにする
ことで、結局は自分が幸せになれます。

☞ もうひとつ、天禄星の大きな特徴があります。

この時代は、自分のチカラで、家族の生活を維持して
行かなくてははいけませんから、どうしても堅実になら
ざるを得ないわけです。

普通 30 代、40 代だと [たとえば] 家とか、マンション
を購入したローンの支払いとか、日々の生活もあるし、
子供が生まれれば、とうぜんお金がかかります。

自分の勝手に好きなものを買うとか、そのようなお金
の使い方は出来なくなります。

若い頃は少々浪費家だった人でも、この時代になって
家庭をもったとなれば、段々しっかり者になってくる
はずです。そういう時代なので現実的な星です。

現実的な星

現実的という意味においては、十二大従星のなかで、
一番現実^にに即した星であり、現実の事柄に強いです

十二大従星のなかで、最も現実に強い星

日々の生活、家の賃貸あるいはローン、子供の養育、さまざまな現実に立ち向かっていかないと、この年代を乗り越えていけません。

それゆえに、どうしても現実の状況に強くならざるを得ない年代ですから、特に現実的なことに強い星です。

エネルギーの強さだけをいえば、『天将星』の12点が最強ですが、現実的な物事は天禄星11点が最強です。確かに現実に強いのですが、その部分が『天禄星』をもっている人の欠点になりやすいのです

それは物事を判断するときに、どうしても事実として存在している現実の状態だけをとらえて、判断しがちなのです。

つまり、精神的なことまでも……現実として現れている状況だけを見て、判断しようとする質が出やすいわけです。

〔たとえば〕その人物を見極めようとするときに、現実で判断しやすいわけです。もちろん現実も大事な

のですが、その人物の人間性、精神的心持ちはとても大事な要素であるはずです。

参考・見極める〔物事の本質を追求してあきらかにする。その真意や価値などについてはっきりと判断をつける〕

参考・要素〔特性が成立したり、その効力を発揮したりするのに欠くことのできない条件〕

〔たとえば〕「あの人は立派な家に住んでいます」というときに、その立派な家は、その人の精神ではなくて現実をあらわしているといえます。

その現実の部分だけを見て「あの人は立派な家に住んでいるから、立派な人だろう」と……例えばですけどそのような判断をしてしまうわけです。

あるいは「〇〇さんは、先日、大変高価な物を贈ってくれたし、招待状まで添えてくれたよ。あんないい人はいないよ」と、いうようにです。

贈り物が高価なことと……その人物の人間性とか、
せいしん清心な人とか、それは本来、別のことであるはずなの

に、どうしても現実的な考え方のほうへと片寄りやすくなる傾向があるのです。

天禄星は十二大従星のなかで、一番現実的な星です。

考え方が現実性に片寄りやすく、精神的なことまで現実で判断してしまうと……この人の欠点となる

現実面に強い——それはよいのですが、精神と現実を切り離して考える必要がある星です。

大人になる以前の天禄星は、実体験が土台となりますので、子供の頃からさまざまな経験を積むことが必要なわけです。

そして、大人になってからは、なるべく“一つの道”で、じっくり経験を積んだほうが伸びていきます。

「職人・技術の星」ともいわれ、技術を身に付けるためには、“これ一筋”という道が向いているのです。

そうすると伸び代のをしろ広めます。

子供時代は実体験が土台



社会へ出たら（大人になったら）一つの道でじっくりと
経験を積んだほうが伸びる

さきほど——20代の若者と、40代の中堅管理職の人物を比較すると、20代の新入社員のほうが体力はあるのに、通常は40代の人のほうが仕事はできる。と記載しましたが、それはあくまでも40代の人物が会社や組織のなかで「もう20年間ずっとこの仕事をやってきた」という前提のうえでの話です。

ところが——この40代の人物が何の仕事をやっても続かなくて、どこの会社に入っても長続きしないで、職を転々としていたのであれば、結局は何も身に付いていない40代、それであれば仕事できませんよね。ですから、社会にでたら、一つの道でじっくりと経験を積むことです。

☞ 何回失敗してもよいから——それが許されるのは初年期までとを考えてください。

参考・思考〔人間の知的作用の総称であり、直感・経験・知識などをもとに、思いめぐらし考えること。論理をたどって考えること〕

☞ 天禄星は経験・体験・思考の星です。

これらを併せて考えたときに、仕事・職業でいえば、現実にたずさわる仕事、そして、この道一筋・何十年……そうです。職人さんですね。

昔から『職人の星』といわれています。

職人・技術者の星

職人さんは、どの分野の職人さんでもよいのです。

〔たとえば〕大工さんなら、若くてチカラがあっても経験がなければ良い仕事できません。

この道一筋、30年40年しっかりやっている人のほうが立派な仕事ができます。

しかも、職人仕事は現実的です。

きちんと良い物をつくるというのは、精神的な仕事ではありません。もちろん気質としては必要です。

どの分野でもかまいません。

てしよく
手職つけて……その道では誰にも負けない。そういう
生き方をしたら、この星はすごく伸びてゆきます。

昔は、職人という呼び方になりますが、現代であれば
技術者です。

エンジニア

メカニック

現代だと、車を製作する人はエンジニア、修理する人
をメカニックといい、畳を作っている人は「職人」と
いいますよね。算命学ではどちらもおなじなのです。

車を製作する、修理する、畳をつくるのも、どちらも
年期を必要とします。

経験と技術を要求されます。

〔たとえば〕昔だと、漆塗りの職人さん、この技術も
長い経験が必要です。

人間国宝といわれる人も、昔でいえば職人さんです。

いま
現在は工芸作家、あるいは芸術家です。

仕事は長い時間をかけて、経験を積むわけですから、専門職がよいのです。

専門職

現代はいろいろな作品があります。

着物に絵を描くとか、陶芸とか、染物、細工物とか、
こういう技巧ぎこうも含めて、職人の星と考えてください。

天禄星をもっているお子さんが「職人になりたい」と
いったら、大賛成で応援してあげてください。

この道一筋、何十年という歳月でやっていくと、もの
すごく腕のいい職人になれます。

もしかしたら、人間国宝にまで行けるかも知れないの
です。生来そういう質をもっている星なのです。

……ひとつ付け加えますと、さきほど主婦に向いてい
ます。という話でしたが、主婦も専門職なのです。

専門職〔主婦も含みます〕

主婦は、毎日、おなじ部屋を掃除して、おなじ家族の

ために食事をつくって、家のなかの何処になにがあるのか、その家の主婦でないとわかりませんよね。

家族一人一人の好み、癖、生活の仕方、この子は何時に起きる、この人は何時に起きる、何時に帰ってくる、というようなことを把握しておかないといけないわけですから、これは立派な専門職です。

【天禄星】 終わります。

つぎは【天将星】 家長の星です。

⇒ **天将星** (てんしょうせい)

天将星 — 家長〔頂点の星〕



50代～60代

前の『天禄星』は、30代40代といたしましたから、順番からすれば、50代ということになるわけですが……、
現在は平均寿命が長いので、60代くらいまで含めてもよいでしょう。

ただ、この年齢は一つの目安に過ぎないのです。

そこで頂点の星と考えてください。

人生の頂点の星

『天将星』は、人生の頂点という意味があります。

つまり、世の中、その人物の人生において、最も活躍できると思われる年代を意味します。

その人物なりの「人生の頂点」といえる年代を意味します。

もし、60 才で定年退職するとしたら……50 代の時期がその人の生涯のなかで、最も高い地位についているとおもわれます。

ゆえに、そこを頂点と考えてもよいわけです。

現在は平均寿命が長いので、60 代で頂点に来る人もいるでしょうし、場合によっては、70 代で人生の頂点に来るといふ人もいるかも知れないですね。

その^{あた}辺りの年齢は、あくまで目安としていますので、個人差があります。

地位とか役職とかを切り離して考えても、その人なりの人生の頂点と呼べる時代と考えています。

その象徴として「^{かちょう}家長」という表現をもちいています。

一家、一族のなかで、一番偉い立場ですよ。

一番中心となる立場の時代ですよ。そういう意味です。まずは、これらのことを頭に入れておいてください。

昔の言い方ですと「家長の星」となりますが、現代的には「トップの星」といわれます。

〔たとえば〕 50 代になれば、一家一族の中心的存在での位置にあり、家長・首位^{しゅい}に立つ人物として、みんなを引っ張って行くというチカラを発揮できる時代の星と考えます。組織のなかの首位といわれる立場に向いている星です。

トップの立場に向く

天将星はトップに向いていますけど、だからといって、必ず、天将星がトップになれるとは決まっていません。質は向いていますが、悪く出てしまう場合もあります。それについては後で説明します。

本来の資質はトップの立場に向いている星です。
俗っぽい言い方すれば、親分肌の星です。

親分肌の星



気が強い ⇒ 気位が高い

参考・資質〔生まれつきの性質や才能。＝資性〕

参考・親分肌〔頼り甲斐があり、面倒をよく見る気性〕

親分のように、頼りになる性格と思っても結構です。
性格も自分が1番だと思う傾向が多分にありますので
気も強いし、^{きぐらい}気位も高いです。

その立場に座るのは当然というような意識が内在して
いるわけです。

その組織なり、部署のボスであれば、配下・子分から
頼られれば、その面倒を見てあげるという親心のある
人物でなければ、子分はついて来ないですよ。

その意味で、人から頼られやすいわけですが、頼られ
るとイヤとはいえず、一生懸命、相手の面倒を見てあ
げる質をもっています。

情が深い

情が深くて、情にもろい質を有します。

ここまでは、天将星がもっている気質・性格的な特徴
なのですが、この質が良く出るか、悪く出るかは、
これだけでは判別できないのです。

参考・気質〔生まれながらの気性。また、人に接したりする態度に現
れる、その人の心の持ち方。気だて〕

トップの立場に向く星ですが、本当にトップになる人もいれば、トップになれない人もいるわけです。

面倒見がよく、情の深さを発揮して、みんなから頼りにされて、組織や物事を中心になる人もいますけど、逆に……この質が災わざわいして、煙たがられる、嫌われる、そういう悪親分肌おんちんぶんの天将星てんしょうせいの人もいるわけです。

その分岐点ぶんきてんは、何処で決まるのかということが、大変重要な焦点しょうてんになって来ます。

参考・焦点 [物事のいちばん中心になるところ。中心点]

⇒ 「エネルギー」という表現を算命学はよく用いますが、天禄星は人生のなかで、最もチカラを発揮できる時代の星ですから、最強のエネルギーを備えています。

エネルギーは最強の星

十二大従星のエネルギー指数は（1点～12点）までありますが、12点という最強のエネルギーを具備ぐびしています。一生のなかで、最もチカラを発揮できる時代の星ですから、エネルギーも最強です。

ちなみの1点しかもっていない星は『天馳星』です。

十二大従星のなかで、1番エネルギーは弱いのですが――

「この世と、彼の世のあいだを、一瞬にして往^ゆき来^きできる」
ことができるエネルギーの瞬発力を備えています。

「十大主星」に〔よい星〕〔悪い星〕一切ないわけです。

『十二大従星』には、各星がもつエネルギーの強さ、
弱さがあります。

その強弱に〔良い〕〔悪い〕一切ないのです。

このことは星を読むうえで、とても大切なことです。

天将星・天禄星・天南星の三つは強星です。と書きました
が、そのなかで一番強いのは天将星です。

それゆえに、占うときには、つぎのように考えて頂きたい
のです。

十二大従星のなかで、最強のエネルギーをもっている
星ですから、人体図に天将星が一つでもあれば、その
人体図の特徴になります。

天将星が1つでもあれば、その宿命の特徴となる

☞ 具体的に人体図を適当に作ります…… 宿命（1）

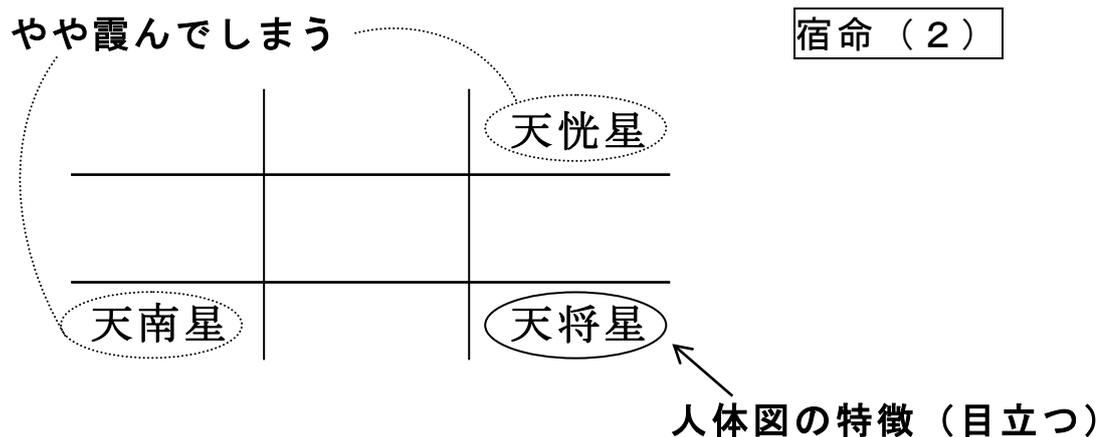
		天恍星
天南星		天将星

人体図に、天恍星（少年の星）と、天将星（トップの星）、天南星（青年の星）とあります。

〔たとえば〕 宿命（1） のような人体図の人がいた場合に、〔天恍星〕の特徴をもちろんもっています。

そして、〔天南星〕の質も有しています。

しかし、天将星があるので、天恍星や天南星よりも、最強の天将星が特に目立ってしまうのです。



『天将星』がひとつあるだけで、人体図の特徴・宿命の特徴にもなります。

天恍星や天南星の質がなくなるわけではないのですが、天恍星と天南星は“やや^{かす}霞んでしまう”というような現象を起こすわけです。

天将星は少し別格のような強さなので、天将星1つをもっていると〔人体図のどこにあってもよいのですけど〕この人体図と見たときに〔天将もち〕という言い方をするくらいなのです。

その意味で、人体図に天将星が1つでもあれば、その人体図の最大の特徴だと考えてよいのです。

☞ ここで^{かんちが}勘違いしやすいのは、「エネルギーが最強だから、運勢も強いのか……」と思いきやすいですね。

〔エネルギーが強い〕のと〔運勢が最強〕だというのは^{こと}異なります。エネルギー指数はエネルギーを論じています。天将星のエネルギーは最強です。という意味です。

ということは、人体図に天将星をもつ人は、もたない人よりも強いエネルギーを備えています。ですから、強いエネルギーを使って生きてゆくようになります。

天将星という強いエネルギーを与えられた人



その強いエネルギーをつかって（消費して）生きてゆく

食べ物でいえば……普通は1日 2,500 カロリーでいいのに、その4倍～5倍の 10,000 カロリーほど食べてしまえば、一所懸命に体を動かして、消化しなければ、からだに悪影響をおよぼします。

このことは宿命のうえでもおなじことがいえます。

あなたには強いエネルギーを与えられているのです。ゆえに、ほかの人より、どんどんエネルギーを使いなさい。そういう役目を与えられています。という意味になります。

人よりも沢山の事、または、大きな事をやりなさい、
そういう役目を、天から与えられた人。

算命的に言えば、人よりもたくさんのこと、または、大きな物事をやりなさいと、その役目を天から与えられた人です。となります。ゆえに、人よりも大きなこと、多くのことができる宿命ともいえるのです。

そのためには、寿命も長いほうが、人よりも沢山のことをできやすいですよ。

早死にするよりも、長生きするほうが、人生において人よりたくさんことができます。

ゆえに、天将星のひとつの特徴として、長生きしやすい人といえます。

寿命も長くなりやすい

“天将もち”の人でも、早死にする人もいるわけですから、必ず、長生きするとは決まっています。

それはですね……十二大従星の『天将星』という部分だけでは決定できないのです。

ただ言えることは、ほかの星よりの寿命が長い場合が多いです。

それでは、なぜ寿命も長くなりやすいかといえ……なかなか死ねない・死なないのです。

“病気を^{わずら}患いながら長生きする”ということも入りますよ。ほかの星に比べて、天将星はかなり重度の苦しい病気でも、乗り越えてしまう可能性が高いのです。

肉体的な病気で苦しいというのも、現実の苦しみですから、病気に強いわけです。

病気に強い

病気に強いから、病気に^{かか}罹らないという意味ではないです。病気に罹ったときに、ほかの十二大従星よりも強いのです。

ほかの星、あるいは弱い星であれば死んでしまうような病気であっても、天将星だと死なないで乗り越えてしまったりするわけです。

死ぬにしても、なかなか死なずに時間がかかります。

こんなに苦しい病気なら早く死にたい、と本人は思い願っても、なかなか死なないということが起こります。

人間の命の時間・寿命まで含めて時間がかかります。

そうなると、エネルギーが強すぎるのも大変です。

天将星に何年も病気で寝込まれたら大変です。

エネルギーが強いことが〔良いのか〕〔悪いのか〕それは別のことです。

良い場合も、悪い場合もあるということになります。

一人でたくさんしたこと、大きなことをやりこなす宿命
というのは——算命学では「宿命の器^{うつわ}が大きい」とい
います。

ところが……器が大きいので、普通の生き方では満足
できないのです。

宿命の器が大きい



普通の生き方では満足できない



普通の生き方で不満が多くなる

〔たとえば〕女性の場合なら、普通の OL になったり、
普通の主婦になったりするだけでは、とてもこの宿命
の器を埋めることはできないともいえます。

そのような生き方では、エネルギーが未消化になりま
す。ゆえに、本人も満足できないわけです。

男性なら、普通のサラリーマンでは、なかなか満足で
きません。

男女ともに、宿命の器のほうが大きいものですから、

どうしても、自分に合った生き方を^{もさく}模索するようになります。模索〔あれこれ考えながら探っていく。いろいろ試みる〕

自分に合った生き方を見つけない



見つけるまでに、人よりも時間がかかってしまう

本当に自分に合った生き方を見つけないまで、人よりも多くの時間がかかってしまいます。

このことは運勢がなかなか伸びないということではありません。普通の人であれば、十分満足できるような生き方でも、この人は満足できないわけです。

その意味では、普通の人よりも、自身の本当の生き方を見つけないまで、あるいは、つくり上げるまでには、かなりの時間がかかってしまうことになります。

エネルギーは、あり余るほどあります。

物理的には無理ですが、算命学ではつぎのようにいいます。

「一生つかっても、使い切れないエネルギーがある」

「ああ、天将もちなの、寝なくても大丈夫」このよう
なひどい言い方をすることもあります。

もちろん人間として不可能ですよ。

そのくらいエネルギーがあるという意味なのです。

それゆえに、慌てずに、普段からエネルギーをきちんと消化するようにして、生きて行きなさいということになります。

〔たとえば〕^{いま}現在は仕事に不満が多々あっても、自分独りでも頑張って「よし、自分が背負って行く、負けるものか——」そのくらいの意気込みで生きて行けば、自然と人よりも大きなこと、沢山のことができる人生になって^ゆいきます。

天将星は不満が多い、満足できないというふうな意味もありますが、あり余るエネルギーを消化するようにして、歩んでいけば、人よりも充実した人生を送ることができるのです。

エネルギーをどんどん消化すれば、

普通の人より充実した人生をおくれる

エネルギーが最強だということは、消化するのも大変なことなのです。

天将星本人自身が満足して、本当に宿命の良さが出るには、人よりも時間がかかりますし、それなりの苦勞を伴います。

弱い星が多い人のほうが、その点は楽でしょう。

きょうせい強星の人は、星を消化できたときは、ひと他人よりも充実した人生を送れます。

ところが……そこまで行き着くには、とても大変なのです。

【天将星】 終わります。

つぎは【天堂星】 老人の星です。

⇒ 天堂星（てんどうせい）

天堂星 — 老人〔隠居の星〕

〔天将星〕は“頂点の星”ですとやりましたから——

〔天堂星〕はそのつぎに位置しています。

頂点を過ぎて、晩年期に入ってきた 60 代くらいからといえるでしょう。

現代だと平均寿命も長いので、60 歳だと、まだ老人とはいえない時代になって来ました。

天堂星はもう少し上の年代ということで、考える必要があるかも知れません。

これも年齢ということではなくて“隠居の時代の星”ということで思考してください。

隠居の星

現代としては、定年退職した後で、完全な年金生活に入った、老後と設定すればよいでしょう。

そのような時代に入った時期だというのを、想像して考えてください。

第一線を退いた後の隠居の時代です。

もう若くはないので、性格的にも落ち着いてきます。

のんびり老後を迎えてゆく姿です。

いままでのように、自分で働いて生活しなくてはいけない時代ではなくて、年金生活でもして、老後はのんびりと好きなことをして過ごそうと、そういう時代を思い描いて頂きたいのです。

そうした時代に入りますと、落ち着きもでて来ますでしょうし、自制心もあります。

落ち着きがあるし、自制心もある

性格的にはこのような特徴をもっています。

隠居の時代なので、第一線を退いていますので、出世しようとか、もっと頑張ってライバルに勝とうとか、そういう時代はすでに通り過ぎました。

「年寄りじみた」ともいえますが、落ち着いて自制心

がある人、とても大人ですよ、といえるわけです。
落ち着いて、自制心があるというのは、人生の頂点を
過ぎましたから、自分の歩んだ道を振り返って、自分
の頂点はどこであったか、自分の頂点はこの位だった
というのがわかる時代でもありますから、人生の悟り
を得たような心境のようなものが醸^{かも}し出されます。
という意味もあります。

老後の時代 ⇒ 老成ふうである

老成風であるといえます。

『天堂星』は老人の星なので、このような姿であろう
と、考えた特徴を書きました。

前回の『天将星』は、人生で頂点を極めることができ
る最強のエネルギーを与えられています。といっても
“天将もち”すべての人が活躍するとは決まっていま
せんよね。

それとおなじでして、天堂星は老人の星、隠居の星だ
からこのような姿です。と書いたのですが、この気質

を良いほうへ活かしている人もいれば、この質が裏目に出ている人もいるわけです。

『天堂星』は、第一線を退いて隠居するような時期に入ったので、隠居の時代の星であり、老後の時代でもあるわけです。

昨今、年金だけで生活するのは大変だということで、
〔たとえば〕サラリーマンの人でしたら、定年退職して、その後にまた仕事を始められるかも知れませんが、60代、70代となって再就職して、“私は現役です”といっても、若い頃、あるいは働き盛りだった頃の自分と比べれば、その働く姿は、第一線を退いた働き方しりぞになっている場合が多いはずです。

それゆえに、定年退職後に仕事に就いていても、この人物はすでに老後の時代に入っています。と見なせる場合が多いわけです。

そのような時代の流れまで含めて、この時代を考えて頂きたいのです。

そうしますと、若い頃のように、あるいは、第一線で働いていた頃のように、バリバリ頑張らなくてもいいわけです。

第一線にいたときは――。

〔たとえば〕ライバルに負けないように、頑張らなくてはいけない時期もあったでしょう。

人を押しつけてでも、出世して上へ昇らないといけない。そういうときあったはずです。

しかし老年の時代になると、^{たたか}闘う必要はなくなりましたから、穏やかに暮らしていけるようになります。

生活にも、考え方にも、落ち着き、静けさが加わってきます。

歳を重ねても、落ち着かない人はいるでしょうけど、その人物にしても、若い頃に比べれば、その人なりの雰囲気醸し出されているはずですよ。

人を押しつけて、バリバリ活躍していた人であっても、人間的にも丸くなってくるでしょう。

無理に前に出ようとする必要はなくなってきます。

おそらく、当時のその人の現役時代を知っている人が見て、「いやあ、久しぶりに会ったら、変わったねえ、丸くなったねえ、自分を押しださない」そういう姿は自制心があるともいえますよね。

若い頃と比べれば活気はないわけですが、よくいえば自制心があって、落ち着いた人物といえるわけです。

そして、天堂星は引っ込み思案にも見られやすい星なのです。

それゆえに、算命学ではつぎのように考えます。

隠居しても、第一線を退いても、毎日暮らして行かなければなりませんから、生活の関する現実を、決しておろそかには出来ないはずですよ。

死ぬまで現実の生活を続けて行かなければいけませんけど、第一線の頃に比べれば、それほど現実を重視しなくていいはずですよ。

お金とか、名誉、そのような現実的な事柄をそれほど求めなくてもよい時代ですよ。

現実の生活を続けても、

若いときのように、現実に固執しなくてよい

星でいえば『天禄星』とか、『天将星』と比較して、
考えていただければよいでしょう。

現実に固執しなくてよいので、精神的な豊かさを求め
るようになっているはずです。

現実の生活を続けても、

若いときのように、現実に固執しなくてよい



精神的な豊かさを求める

昔のご隠居さんであれば、落語の出てくるように、庭で植物
を育てたり、盆栽の世話をしたりと、見事な盆栽を育てるこ
とで、精神的な豊かさを求めているわけですね。

現代は、別な形に現れる人のほうが多いでしょう。

そうしますと、天将星や天禄星の人生の中心的な時代に
比べれば、精神的な豊かさを求めるような気持ちに
もなるでしょう。

そして、日常生活を^{いとな}営んでいるわけから、現実的なこ
ともおろそかにはできません。

中年期の【天禄星】 【天将星】 のように、現実の問題に正面から向き合った時代に固執することなく、過去と別れて、精神へと踏みだした ^{おもむき} 趣 を考えますと……、

【天南星】 【天禄星】

現実と ^{たいじ} 対峙した時代



【天将星】

自分の頂点を知る



【天堂星】

精神的な豊潤を尋ねさぐる

現実と精神のバランスがよい星

まだまだ、現実をおろそかにはできませんが、精神の豊かさも求めています。

現実は大南星、天禄星の時代で修練を経て、天将星で自分の頂点を知り得た。というように人生のさまざまな事象を経験して、晩年期を迎え……精神性を求めるという、どちらも兼ね備えています。

『天堂星』は、現実と精神のバランスのよい星です。
現実と精神のバランスが取れて来る時代です。

参考・趣 [心がある方向へうごいてゆく。心のあり方]

参考・対峙 [負けまいとするかのように位置すること]

参考・豊潤 [ゆたかでうるおいのあること]

参考・尋ね [物事の根源や道理などを探り求める]

昔は、ご隠居さんと呼ばれるような立場の人です。
現在^{いま}はもうそういうことはないでしょうけど……、

[たとえば]おなじ町会のなかで、問題が起こったり、
困った事があったりして、この人に相談すると、すごく
いい判断、いい知恵を貸してくれると、頼りにされた
わけです。

昔は、隠居とか、長屋の^{さはい}差配は相談役ともいえます。

人生経験が豊富なだけに、若い人には気がつかない、
バランスの良い判断もできるし、体験に基づいた助言
できますから、『天堂星』は相談役に向きます。

現実と精神のバランスがよい星 ⇒ 経験も豊富



相談役に向く

企業のなかには、相談役という地位がありますが、必ずしも、それとおなじかどうかは判りませんが——会社のなかで、すごく活躍した人が、天堂星の時代になって、相談役という立場に就いて、社内の問題とか、突発的事象が起こったときに、その人物が経験や体験に基^{もとづ}く、バランスある判断を提言して、相談役としての役目を果たしてくれると、組織の動きは円滑に進むでしょう。

それゆえに、相談役に限ったことではなくて、天堂星をもっている人物が、まだ若年で平社員であろうと、社長であろうと、どのような立場や年齢であろうとも天堂星をもつ人は、良い相談役になれるように努めることで、その人物の良さ、持ち味が出てきます。

実際の立場が相談役ではなくても、人から相談を受けたときには、バランスある判断をして、適切といえるアドバイスをしてあげるとよいわけです。

参考・バランス [二つ、またはそれ以上のものの間のつりあいが取れること。調和がとれていること]

それには、その人が私生活においても“自分を磨く”という生き方をしていないといけません。

それを実践することで、天堂星は光り、運勢も伸びていきます。

それは天堂星が、現実と精神のいずれにも片寄らない判断ができる星だからです

現実と精神のいずれにも片寄らない判断ができる

ゆえに、相談役に向いているわけです。

じつねんれい
実年齢はまだ若く、老後になっていなくても、天堂星をもつ人は……何か困った友達が相談に来たときには、バランスの取れたアドバイスをすることができる人になれるわけです。

そうなるには——この部分が大事なところなのですが天堂星は [現実と精神のいずれにも片寄らない判断ができる質を備えている] という部分が持ち味であり、良さでもあるわけです。

ということは、天堂星をもつ人は、自分自身を丁寧^{ていねい}に磨いて、現実と精神のいずれにも片寄らない生き方をすることです。……とても難しいですよ。

現実と精神のいずれにも片寄らない生き方をすること

究極の無我を求められる【天印星】も難しいですけど——
【天堂星】も難しいですね。

天堂星をもっている人の生き方としては、若い頃から現実的なことばかりに、執着^{しゅうちやく}してはいけませんし、精神のほうばかりを、重視してもいけないのです。

自分が生きている姿そのものが、現実の姿ですから、現実を学ぶのは、難しいことではないでしょう。
ところが……精神を学ぶほうが難題かも知れません。

算命学における天堂星の生き様^{いざま}としては、現実も大事ですし、精神も大事です。

両方を重視した、どちらもおろそかにしないという、

生き方をすることで、星の良^よさが出るだけでなく、宿命が活^いきますので運勢も上がっていくのです。

参考・生き様〔自分の過ごして来た独自の生き方〕

〔独自の人生観をもち、それをつらぬき通して生きる姿〕

〔たとえば〕身近なところで申しあげますと——、何か買い物に出かけました。買い物に出かけて商品を買うときに、**Ⓐ**の商品を買おうか、**Ⓑ**の商品を買おうかと迷ったときに〔安いのは**Ⓐ**〕だけど〔**Ⓑ**の商品を手にしたとき精神の満足度は高い〕そのように迷ったときに、どちらにも片寄らないバランスの良い判断をして決めるのです。

どういふことかといいますと……買い物をするときに〔安いから得〕だと、そういう買い物の仕方ばかりをしていると、この星はダメになってゆきます。

それとは逆に、いつも自分が満足する品物ばかりを、選んで買っていて、この星はダメになってきます。つまり、そのときにその品物をつかう用途、何に使うために必要で購入するのかを適切に判断して、それら

の状況に即した考え方で、購入するとよいでしょう。

その立場とか、状況においてバランス良い考え方をし
て、^{いま}現在の自分の状況ならこちらのほうが良いとか、
その時によって、また立場によって、どちらを選ぶか
決めればよいわけです。常に普段から、そういうふう
な生き方をして行くと、この星は生き生きとなります。

☞ さて、ここで今までの話をいったん脇に置きます。

老人・お年寄りを想像して頂きたいのです。

家におじいちゃん・おばあちゃんがいるとします。

その存在が——子供とか、孫から嫌われる、若い夫婦
に嫌われる、そういう、おじいちゃん・おばあちゃん
もいます。必ず大事にされるとは決まっていません。

さて、若い人から嫌われる、けむったがれる、そのよ
うなお年寄り、一般にどういうタイプのお年寄りな
のでしょう。いかがお考えですか……？

〔たとえば〕口うるさくて、自分の意見を変えない、
自分の考えを一方的に押し付けようとする、そういう
お年寄りは一般に嫌われます。好かれないですね。

そうしますと、『天堂星』にも、それとおなじことがいえるのです。

口うるさくて、出しゃばり、頑迷^{がんめい}で自分の考えだけを押し通そうとする。そのような天堂星は嫌われます。

口うるさい、出しゃばり、頑固な天堂星は嫌われる

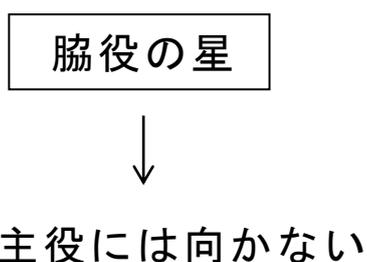
さきほどは、相談役に向いていて、なにか困り事があれば、天堂星の人に相談すると、バランスのよい助言で対応してくれますよ。そう書きました。

このときの天堂星は……話にしっかりと耳を傾けて、念入りに考えてから、相手が心配や疑問が消えて安心するように、穏やかな態度で、こういうふうにしたらよろしいのではないのかなと……アドバイスをしてくれたら、その人物はまわりから大事にされるでしょう。ところが——こっちが相談もしていないのに、「こうしなさい、ああしなさい。そこがダメなのよ」と、自分の意見を一方的に押し付けようとするような相談役だとしたら、その相談役は嫌われますよね。

かりに、その人物が正しい意見を言っている、相手に素直に受け取ってもらえなくなります。

そうしますと、この状況はつぎのように考えるとよいわけでは。

天堂星は「脇役星」ともいわれまして、主役には向かない星です。



実際の俳優とか、役者さんにたとえて考えてもおなじことがいえます。“名脇役”と呼ばれるような役者さんがおられます。主役には向かないのですが、その人物・脇役がいることで、その映画とか、ドラマ全体がとてもしかり立つようになります。

このことは皆さまのほうが詳しいでしょう。

“名脇役”がいてくれることで、主役のほうも演技がやりやすくなるといわれています。

つまり、天堂星の時代は、隠居して、第一線を^{しりぞ}退いた時代ですから、主役ではないわけです。

自分が第一線に立つ主役ではありません。

その時代は過ぎたのですが、人間関係なり、ビジネスの仕方なり、経験・体験したことを、冷静に省みて、一歩下がった第三者の立場で、助言する、物事の判断をするのが得意なわけです。

それで「脇役の星」という意味があるのです。

これは決して悪い意味ではありません。

一歩も二歩も退いて、脇役の徹することで、^{いぶ}^{ぎん}燻し銀のように輝く星です。

脇役に徹するほうが光る星

決して主役になろうとせずに“脇役が自分に与えられた最後の使命である”と、そういう姿勢に徹したほうが、この人は良さがでて^{かがや}輝きを放ちます。

天堂星が光るということは、相談役として頼りにされるわけです。

これは年齢にかかわらず、普段の私生活、そして仕事

のうえでも、自分は脇役の姿勢で生きて行くことで、最も存在感がでますし、光り輝いて、宿命も生きてきます。そのように考えるとよろしいでしょう。

それゆえに、目立とうとして、口うるさく、出しゃばりだと、この星は人から嫌われます。

自分が先導して引っ張って行こうとすると、うまくゆかなくなります。主役に向かない星だからです。

もちろん、世の中で実際に天堂星をもっている人が、会社の社長とか、トップの立場に立つことだって有り得るわけです。

かりに——天堂星をもつ人物が社長に就いたとしても、自分がこの会社を引っ張っていくんだとか、自分がこの会社で一番偉いんだとか、そういうやり方をすると、まわりから嫌われて孤立するようになります。

必ず、陰でそういう動きが起こるはずですよ。

それゆえに、社長になっても“自分の生き方は脇役だと位置づけて”自分が目立とうとしないことです。

一歩退いて、第三者の立場で、現実と精神のバランスをじっくりと考えた判断をする。そのように心がけてやっていくと、社長になっても成功します。

とてもよい社長になれます。

会社とか、みんなのバランスを考えた行動を取ること
でうまくいきます。

お年寄りも、そういうお年寄りは大事にされます。

決して出しゃばらない……でも若い人や、子供や、孫が困ったときだけ、助け舟を出してあげたり、助言をしてあげたりするお年寄りであれば、みんなから好かれるし大事にされます。

天堂星をもつ人は、年齢に関係なく、一生このような特徴を備えている星だと自覚しておいてください。

まさに「老成風」といわれるゆえんです。

【初年】 4 4 回目【十二大従星力学④】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 4 5 回目【十二大従星力学⑤】です。